

本質的な問い

自分の伝えたいことを分かりやすく表現するためには、どうすればよいだろうか。

1 本単元で目指す児童の姿

本単元で目指す児童の姿	自分の課題を解決するために複数の資料を読み、必要な情報を選んでいる。伝えたい内容が聞き手に伝わるように、話の構成や資料提示を工夫しながらプレゼンテーションをしている。	育成を目指す資質・能力	知識及び技能	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
			思考力、判断力、表現力等	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
			学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
単元を貫く問い	分かりやすいプレゼンテーションをするには、どんなことに気を付けたらよいだろうか。			

4 課題発見・解決学習の過程

	単元構成（思考のプロセス）	主体的・対話的で深い学びのための指導のポイント
課題の設定	<p>安登の現状について調べて、課題をもつ。</p> <p>どんなプレゼンテーションをしたら、町づくりに興味をもってもらえるかな。 ・分かりやすいプレゼンにするためには構成を工夫する必要があるな。 ・資料（写真、グラフ、表など）を効果的に活用しよう。 ・自分達の考えを分かりやすく伝えることが大切だな。</p> <p>安登の町を元気にするために自分達にはどんなことができるかな。 ・地域おこし協力隊やまちづくり協議会の人たちがどんな取組をしているのを知りたいな。 ・他の地域の町づくりを参考にしてみよう。 ・町の人にとっての幸せって何だろう。 ・自分達にできることを考えて提案してみよう。</p>	<p>総合的な学習の時間と関係付けることで課題意識をもたせ、課題解決に向けた学習の進め方を話し合わせる。</p> <p>実際に地域の方が取り組んでいる町づくりや町に対する思いについて知り、自分達も町の活性化に取り組むという見通しをもたせる。</p>
	<p>パフォーマンス課題の設定</p> <p>「安登ジュニア地域おこし協力隊」としてふるさとの町に貢献できることを考え、町づくりについて考えたことを地域の人にプレゼンテーションしよう。</p>	<p>ICTを活用し、昨年度の6年生の取組を提示することで、学習の見通しをもたせる。</p>
情報の収集	<p>要旨を書き、筆者の考える「町の幸福」を読み取る。</p> <p>自分の「町の幸福」について考える。</p> <p>どんな資料や事例を活用すれば聞き手に考えが伝わるかを考える。</p> <p>序論・本論・結論に分けて構成されている。筆者の考えは序論と結論に書かれているな。（双括型）</p> <p>自分「町の幸福」のためには「人と人のつながり」「主体性」「未来のイメージ」が大切だと思うな。</p> <p>表やグラフを活用することで、より分かりやすい説明になっているな。</p> <p>伝えたい内容に合った事例を取り上げることで説得力が生まれているな。</p>	<p>文章の要旨をまとめる活動を通して筆者の考える「町の幸福」を読み取らせ、町づくりに取り組む際のポイント（町づくりのポイント）についての理解を深められるようにする。</p>
	<p>町の人の幸せとはどんなものかを調べる。</p> <p>安登の人たちにとっての幸せとはどんなことだろう。（町の人の願い）</p> <p>安登の町や他の町ではどんな取組がされているのだろう。（町の課題や事例）</p> <p>自分が考える町の幸せとは……。自分達ができることは……。</p> <p>総合的な学習の時間と関連</p>	<p>調べていく中で目的意識、相手意識を明確にもたせ、情報収集や分析を行う。</p>
整理・分析	<p>調べたことをカードに整理して観点ごとにまとめよう。</p> <p>自分達の考えに合う資料を選んで構成を考えよう。</p>	<p>タブレットを使ってスライドを作り、お互いのスライドを見ることで自分の作ったスライドをよりよいものにできるようにする。</p>
	<p>今までの学習を活用してプレゼンテーションを作る。</p> <p>モデルプレゼンを比較することで、資料を提示するタイミングや提示の仕方などについて考える。</p> <p>言葉遣いなど相手意識をもった表現の仕方について考える。</p> <p>モデルプレゼンから、聞く人をひきつけるプレゼンテーションのポイントを考えてみよう。</p>	<p>2つのモデルプレゼンを比較することで、構成や資料活用、言葉遣いや表現の面から「プレゼンテーションのポイント」を考えさせる。</p>
まとめ・創造・表現	<p>資料を効果的に活用して、安登を自分たちが盛り上げるために自分達が考えたことについてプレゼンテーションをする。</p> <p>総合的な学習の時間と関連</p>	<p>グループ同士でプレゼンテーションを見せ合い、「プレゼンテーションのポイント」と照らし合わせながら話し合うことで、よりよいプレゼンテーションへと改善させるようにする。</p>
	<p>伝えたい内容が聞き手に伝わるような話の構成や資料提示のポイントが分かった。このことをほかの学習でも生かそう。</p>	<p>身に付けた力について振り返り、今後活用できそうな場面について考える。</p>

2 パフォーマンス課題

総合的な学習の時間に安登の良さについて調べた。安登の町をよりよくするために、学習に協力してくださった安浦町まちづくり協議会の方を始め、多くの人が安登の町づくりに携わっておられる。自分達もふるさとの町に貢献できることはないだろうか。町づくりについて考えたことが地域の人に明確に伝わるようなプレゼンテーションをしよう。

3 ルーブリック（見直し・改善）

尺度	プレゼンテーションの構成	発表の表現
3	複数の情報を分類したり関係付けたりして目的に合った情報を選び、伝えたい内容が明確に伝わり、相手を納得させるような話の構成を工夫している。	聞き手の表情や反応に応じて問いかけや補足をしたり、順番やタイミングを工夫しながら資料を提示したりしながら場面や相手を意識して発表している。
2	複数の情報を分類したり関係付けたりして目的に合った情報を選び、伝えたい内容が伝わるように話の構成を工夫している。	資料の順番を工夫したりタイミングよく資料を提示したりしながら場面や相手を意識して発表している。
1	目的に合った情報を選び、話を構成している。	資料を提示しながら発表している。

5

ふるさとを元気に！ ～安登の幸福論～(町の幸福論—コミュニティデザインを考える—)

男子 14名 女子 12名
計 26名

1 単元のデザイン

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語内容A(1)ウ「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。」及び、内容C(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」を受けて設定された単元である。
- 教材文「町の幸福論」は、事例を挙げ、図や表などを用いて分かりやすく説明する方法やその効果を学ぶことで、プレゼンテーションに生かしていくことができる教材である。
- インタビューや文献、実地調査などで調べた情報を関係付けて活用し、聞き手を意識したプレゼンテーションをすることで、本校が目指す資質・能力を育むことができる。

児童の実態

- 本学級の児童は、1学期の説明文教材で文章の構成や事例と筆者の考えの関係を捉える学習、総合的な学習の時間で地域の歴史について調べたり聞いたりしたことをグループごとに新聞にまとめる学習をしている。相手に分かりやすく伝えるために資料をどのように活用したらよいか考えている児童は少ないと考えられる。
- 全国学力学習状況調査では、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題の正答率が36%であった。伝えたいことを明確にして自分の考えをまとめる力に課題がある。

パフォーマンス課題について

- 本単元では、町づくりで貢献できることを考え、地域の人にプレゼンテーションするというパフォーマンス課題を設定した。自分たちの地域の現状について調べたことを基に、よりよい町づくりの在り方について考えて他者に伝える活動は、児童が主体的に学習に取り組める課題である。また、聞き手に伝わるプレゼンテーションの仕方について学び、話の構成や資料提示を工夫したプレゼンテーションをすることで、思考力・判断力・表現力が育成されると考える。

思考を深める指導のポイント

- 単元の始めには文章全体を文章構成図にまとめて要旨を書き、町づくりに対する筆者の主張を読み取らせる。また、図や表、写真などの資料がある文章とない文章を比較して見せることで、論の進め方や資料の活用の仕方の工夫に気付かせる。プレゼンテーションを作る際は自分たちが調べたことについてカードにまとめ、観点別に整理させて話の構成を考えさせる。その際教師が作成した二つのモデルプレゼンテーションを比較させることで、実際のプレゼンテーションのイメージをつかませ、構成や資料活用、言葉遣いや表現の面におけるプレゼンテーションのポイントに気付かせる。最後に、グループ同士でプレゼンテーションを見せ合い、学習したポイントと照らし合わせながらプレゼンテーションを改善させる。単元の終末では安浦まちづくり協議会の方々にプレゼンテーションし、身に付けた力について振り返る。そして、今後活用できそうな場面について考え他教科の学習に生かすことで、情報を活用し相手に伝える力の定着を図る。

2 単元の目標

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。【知識及び技能】
- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・目的や意図に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	①資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 ②目的や意図に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	①これまでの学習や経験を振り返って学習課題を設定し、見通しを持って粘り強く必要な情報を見付けたり、積極的に表現を工夫したりしながら、町の未来について考えたことをプレゼンテーションしようとしている。

4 単元計画 (全14時間)

次	時	学習内容	評価規準 (評価方法)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1	課題の設定 安登の町を盛り上げるために自分たちにできることを考え、学習計画、パフォーマンス課題を設定する。 関連付ける			
二	2	情報収集・整理・分析 教材文全体を音読し、話の大まかな内容をつかむ。語句の意味を調べる。	○知①(行動観察, ノート分析)		
	3	教材文全体を文章構成図にまとめ、論の進め方の工夫を考える。	○知①(行動観察, ノート分析)	◎思②(ノート分析)	
	4 (本時)	資料を活用することの効果について考える。 分類する 比較する		◎思②(ノート分析)	
	5	要旨を書き、筆者の考える「町の幸福」を読み取る。自分の町の未来についての考えをもつ。	○知①(行動観察, ノート分析)		
	6	自分達の町や他の市町の町づくりについて情報を収集する。(インターネット, 本, インタビュー等) 総合的な学習の時間と関連	○知①(行動観察, ノート分析)		○態①(行動観察)
	7	収集した情報を観点ごとに整理し、プレゼンテーションの目的や意図, 伝える相手に合った情報を選ぶ。 分類する		○思②(ノート分析)	

	8		プレゼンテーションの構成を考え、原稿を書き、説明に必要な資料を準備する。	◎知①（ノート分析）	○思①（行動観察、ノート分析）	
三	9	まとめ・創造・表現	モデルプレゼンから表現や言葉遣い、効果的な資料提示の仕方などについて考え、「プレゼンテーションのポイント」にまとめる。また、自分たちのプレゼンテーションを見直す。 比較する	○知①（行動観察、ノート分析）		
	10		自分たちのプレゼンテーションを改善する。（情報を再度集める。提示する資料を加える。構成を見直す。表現の仕方を改善する等。）		○思②（行動観察、ノート分析）	◎態①（行動観察）
	11		互いのプレゼンテーションを聞き合い、「プレゼンテーションのポイント」と照らし合わせながら気づきを交流する。 比較する	○知①（行動観察、ノート分析）		
	12		自分達が考えたプレゼンテーションをさらに見直す。	○知①（行動観察、ノート分析）		
四	13	実行	パフォーマンス課題に取り組む。 総合的な学習の時間と関連		◎思①（行動観察、ノート分析）	○態①（行動観察）
	14		振り返り	学習したことを振り返り、学んだことをまとめる。		○思①（行動観察、ノート分析）

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「○」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「◎」を付けている。

5 本時の学習（本時4 / 14）

（1）本時の目標

資料を活用することの効果について考えることができる。

【思考・判断・表現】

（2）学習の流れ

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
つかむ 考える	1 本時の学習が、パフォーマンス課題とどうつながっているかを知る。 ○ 考えを分かりやすく伝えるために資料をどう活用するとよいでしょう。	・形式段落⑦の写真がない文章を提示し、資料を用いて説明することの必要感をもたせる。	
	2 めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">資料を活用することの効果について考えよう。</div>		
深める	3 教材文を音読する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 学び合い①自分の考えをもつ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 学び合い②分類しながら思考する </div> 4 本論に使われている資料の効果について考える。 <u>分類する</u> ○ それぞれの資料で筆者が伝えたいことや資料の効果は何でしょう。 ・ A：焼き物が有名で展示されている。／一目で様子が分かる。具体的なイメージがわく。 ・ B：開園から十年で来園者数が80万人近くになっている。／数の増加がよく分かる。取組の効果が分かりやすい。 ・ C：開園から十年で年間プログラムは約千回、グループ数は三十ほどになっている。／数のちがいははっきりと分かる。具体的な数字が分かりやすい。 ・ D：バックキャストのしくみ／難しい言葉の意味がよく分かる。理解を助ける。 ・ E：美しい自然に囲まれた学校／一目で様子が分かる。具体的なイメージがわく。	・ 分かりやすくするために資料をナンバリング（A～E）してまとめさせる。 資料A～Eの種類 ・ A：写真 ・ B：棒グラフ ・ C：表 ・ D：図 ・ E：写真 ・ Aのみ全体で扱うことでまとめ方を理解させ、残りのB～Eを自分で考えさせる。 ・ 文章と資料がどのように対応しているのかが分かるように、文章中の言葉を使って説明させる。 ・ 筆者が焼き物の並んでいる写真（A）を選んだ理由を考えさせることで、単に様子が分かりやすいから写真を選んだのではなく、伝えたいことに合わせて資料を選んでいることに気付かせる。 ・ BとCの共通点を問い、数の変化について伝えるためには表やグラフを用いると分かりやすく、伝える内容に合わせて資料の選び方が大切であることに気付かせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 学び合い③考えを広げたり深めたりする </div> 5 教材文にもう一つ事例を付け加えるとしたときの資料の選び方について考える。 <u>比較する</u> ○ 「安芸太田いわいマラソン」を事例にあげるとしたら、どの資料を活用しますか。 ・ ボランティアと選手がやりとりする写真をのせ、おもてなしの気持ちの表れを伝えたい。	・ 筆者の立場になって教材文とは別の事例を取り上げることで、資料の活用の仕方についての理解を深める。 ・ 事例を範読し、意味を説明することで、内容を理解しやすくさせる。 ・ 文章と資料がどのように対応しているのかが分かるように、文章中の言葉を使って説明させる。 ・ ロイロノートを用いて資料を選び、選んだ理由を全体ですることによって資料の効果について考えさせる。	複数の資料を比較することを通して、資料活用の工夫やその効果について考えている。 【思・判・表】 （ノート分析、発言）

振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が220名から530名に増えたことを示すグラフをのせ、イベントの人気が高まったことを伝えたい。 	
	6 本時のまとめをする。	
	7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自分達のプレゼンテーション作りに生かしたいことをまとめる。


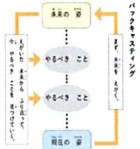
伝えたいことに合う資料を活用すると説得力を高めることができる。

6 板書計画

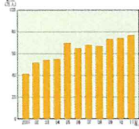

⊕

比較する

事例「安芸太田しわいマラソン」
○使う資料…写真・図・グラフ・表
○理由…

年度	実施回数	グループ数
2001	154	22
2002	181	22
2003	461	25
2004	626	28
2005	526	30
2006	569	31
2007	686	31
2008	852	31
2009	738	31
2010	677	31
2011	961	31

⊗

分類する

資料
筆者が伝えたいこと
資料の効果

伝えたいことに合う資料を活用すると、説得力を高めることができる。

美しい自然に囲まれた学校である。具体的なイメージがわかる。

バックキャスト
インテグを理解してほしい。
意味が分かる。理解を助ける。

実施回数やグループ数が増えている。
増加が分かる。具体的な数字が分かりやすい。

来園者数が十年で増えている。
推移が分かる。取組の効果が分かりやすい。

焼き物が有名で展示されている。
様子が分かる。具体的なイメージがわかる。

町の幸福論
資料を活用することの効果について考えよう。

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 「町の未来について町づくり協議会の人にプレゼンテーションする」というパフォーマンス課題を設定し、総合的な学習の時間と関連させることで、本質的な問いに迫る学習を展開することができた。
- 教材文に使われている資料の特徴を比較・分類したり、教師が準備した二つのモデルプレゼンを比較したりすることなどにより、資料を活用することの効果や分かりやすい表現方法について考えることができた。
- 聞き手である町づくり協議会の方々は、児童にとって顔を知っている程度であり、仕事内容や自分たちの生活との関わりについて知らない児童も多く、より相手意識をもたせるための工夫が必要であった。



2 単元で育成を目指す資質・能力について

	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
		A	B	C
単元テスト	93.1%	67%	20%	13%
パフォーマンス課題（発表）	—	25%	59%	16%

育成を目指す資質・能力に関する結果

【知識・技能】

- 単元テストにおける正答率は93.1%であった。教材文を読み取るための言葉の意味や漢字の習得はおおむねできていると言える。

【思考・判断・表現】

- パフォーマンス課題の評価におけるA評価児童は、聞き手の反応を待って話したり、問いかけたりするなどの工夫をしながら資料を提示してプレゼンすることができた。



プレゼン発表の様子

- パフォーマンス課題の評価におけるC評価児童は、伝えたいことにあった資料を選んだり、提示するタイミングを工夫したりすることなく、発表原稿を読むだけの発表になっていた。児童にとって、プレゼンするのは初めてであったため、一人一人が事前に簡単なスライド（自己紹介や宝物紹介など）を作って発表するなど、スライドの作り方や発表の仕方に慣れておく必要があった。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 町づくり協議会の方々へのプレゼンを振り返って児童が考えた内容は、右の通りである。自分の伝えたいことをプレゼンで分かりやすく伝えるために学んだことを振り返り、学習したことを活用できそうな場面について考え、よりよい発表をしようとする態度が養われた。

発表会では、動作をつけたりハキハキと話したりアイコンタクトに気をつけるなどして、発表を分かりやすくしました。私は休んでいたのですが、2人に任せることになってしまったけれど、3人で協力してここまで来ることができました。これから、実現に向けてどんなことが必要なのか、またどのようなことをしたら良いのかについてしっかり自分の意見を出したいし、しっかり話し合いたいです。

今日の発表会では、練習の時よりもうまく進めることはできたけれど、地域の方が言っていた様にあまり正確な資料ではなかったり、自分の声の速さが速かったりしたのでそこを気をつけたかったです。またこういう機会があれば今日のことを生かして発表会などに生かしていきたいです。

プレゼン発表後の児童の振り返り記述内容

3 「デジタル機器」の活用

- ロイロノートを使いプレゼンのスライドを作成させた。共有ノート機能を使うことにより、一つのノートを複数人で分担して編集することができるようにした。これにより、一人一人の役割が明確になるとともに、自主的に改善案について話し合うグループが見られるなど、児童の思考の深まりを支援する役割を担うことにつながった。



2.現状の問題点
ポイ捨てが多いこと



2.現状の問題点
プラスチック タバコ 紙 空き缶

児童がロイロノートで作成したスライドの例